

第41回 うつのみやこども賞だより

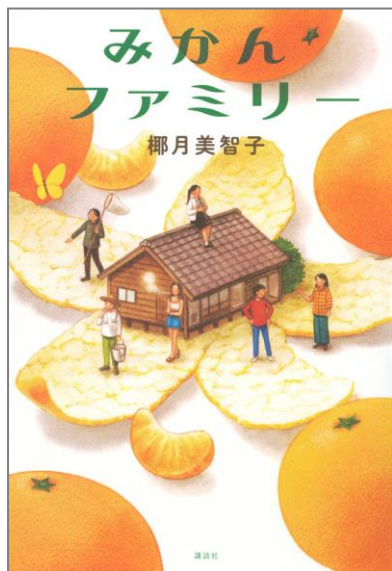
令和6(2024)年度 10回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『みかんファミリー』

椰月 美智子／著 獄まいこ／装画（講談社）



令和7年3月2日

読めば
愉快だ
宇都宮
UTSUNOMIYA CITY LIBRARY

～読んだ本の感想より～

- 「美琴」と「野々花」が同じ家で暮らすことで気付けたことや、お互いの良いところが分かって良かったと思いました。
- 美琴と野々花は絶対にふすまを開けないと決めていたのにお互いの部屋に行ったり、ふすまを開けていたり…。心情の変化が良くわかる本で楽しかった。
- 美琴の母が隠し通したかった秘密が最後には分かって良かった。
- 2つの家族が同居することになって、おもしろい設定だなと思った。
- 最初はなじめなかった主人公がどんどん友達や家族に心をひらいていく姿や、つらい時に野々花によりそっている姿に感動した。
- 複雑な家族関係だったが、美琴との関係が良かったです。
- 急に知らない人と一緒に住むことを考えると、自分だったら想像もできないことで何だかふしぎでおもしろかった。

『迷子のトウモロコシ』 嘉成 晴香／作 （金の星社）

- 最初、理名は姉の恵理と比べられていたけど、物語が進むにつれて直やリョーと出会っていくところや、途中、理名が小説を書くの良かったと思いました。
- リーナは絵の上手なお姉ちゃんと比べられる事あって、モヤモヤしながら「いい子」をしている所はかわいそうだったけれど、本田さんとも仲良くなっていった、お姉ちゃんとの仲も取り戻せて良かった。
- 姉と自分の違い、なぜか感じてしまう何ともいえない感情が伝わってきた。現実的だけど、ちょっとファンタジーのような世界観にひかれた。
- 大家さんのひ孫の直と出会い話していくうちにリーナが自分の気持ちと向き合い成長していくところが良かった。

『銀樹』 森埜 こみち／著 日下 明／絵（アリス館）

- 最後の「そのことを、まだだれも知らない」という文章が物語を全てまとめているようで良いと思いました。
- 海渡に銀樹をわたす所や断片と言われる所など、すごく胸が「ドキッ」とする所がたくさんあったけど、最後の「発光するような明るいやわらかな銀が、小さな草花のなかで輝いている。そのことを、まだだれも知らない」が感動しました。
- 不思議な木である銀樹を誰よりも大切にみつづけている主人公が、とてもすごいな、と思いました。
- マボウ様はシンを薬師に育てるためにただ教えるだけではなく、考えさせるようなことを言っていたのがすごいなと思いました。

『北緯44度浩太の夏』

有島 希音／作 ゆの／絵（岩崎書店）

- 戦争を知らないぼくたちには理解できないこともあったりと、勉強になった。
- 初めはおじいさんの言った「ひっぱられる」という言葉の意味が理解できなかったけれど、読んでいくうちに、戦争を物語っている言葉なのだと分かった。
- 太平洋戦争の北海道で何があったのかくわしく知ることができて良かったです。